

特別養護老人ホームにおける看護職員と介護職員の連携 によるケアの在り方に関するモデル事業の結果

実施状況

- 全国125施設(41都道府県)
- 連携によるケアを試行した介護職員は、1施設当たり平均3.5人
(介護福祉士資格取得者…87%・通算経験年数5年以上…66.5%)

安全性

- ヒヤリハット・アクシデント発生の報告において、救命救急等の事例はない
ヒヤリハット発生267件 (口腔内吸引124件・胃ろうによる経管栄養143件)
アクシデント発生 7件 (口腔内吸引 1件・胃ろうによる経管栄養 6件)
- ヒヤリハット・アクシデント発生の報告あり45施設(36%)、報告なし80施設(64%)
(報告なしの施設が多数を占めているのは、報告基準を各施設に任せたためと考えられる)

プロセス評価

- 口腔内吸引および胃ろうによる経管栄養が「介護職員が独りでできる」の評価は、
研修後2ヶ月が80%以上、研修後3ヶ月が90%以上と、月日の経過とともに向上
(介護職員の自己評価・看護職員の他者評価ともに)

平成21年度特別養護老人ホームにおける看護職員と介護職員の連携によるケアの
在り方に関するモデル事業実施施設におけるヒヤリハット・アクシデント事例(抜粋)

- 16時夕食の経管食開始前に、痰がらみあるため吸痰施行。吸引すると同時に昼の経管食様のもの多量に嘔吐。すぐに看護師に報告し、バイタルサイン測定し、一般状態の観察行う。嘔吐・嘔気すぐに良くなり、夜の経管食中止とし、内服と白湯のみ胃瘻より流す。
- (11/12の夕方にも、口腔ケアを行った際に嘔吐反射あり。その後、経管食を多量に嘔吐しており、口腔内の吸引には注意が必要であることを、看護師、介護職員の認識不足であった。)
- 18時頃から叫び声が大きくなり、痰がらみも頻回。吸痰を何度か行うも叫び声大きくなる。18時30分屯服のウインタミン1包注入。それ以降も叫んだ事により痰がらみあり。19時頃、口腔内の痰を吸引した際、多量に痰を吸引。嘔気(+)。すぐに遅番の看護師に報告。利用者の状態確認しバイタルサイン、SPO2を測定。嘔気(-)となり様子観察を行う。
- (頻回の痰がらみと叫び声が大きくなる事により痰の量も多くなり、口腔内の見える範囲の吸引のはずが、のどの奥までチューブが入ってしまった。又、再三の痰がらみにより吸痰する時間も長くなり刺激してしまった。いつもより痰がらみひどく叫び声も大きくなるようであれば、早目に看護師に報告すべきであった。)
- 注入開始した時には体位保持できていたが、徐々に傾いていった。
8:10居室に訪室すると、ベッド上で右に大きく傾き、少量嘔吐している所を発見する。
(先の事を予測できていなかったため、傾く方にクッションを挟むのを忘れてしまった。)
- 昼食時、流動物を注入した際、10分程で、100ccが流れ込んでしまい、胃に負担がかかり、嘔吐、嘔気などがあるのではないかとヒヤリとした(滴下数を観察できていなかった。)

介護老人保健施設におけるたんの吸引・経管栄養に対するニーズ

介護老人保健施設入所者のうち、3.0%はたんの吸引を必要とし、6.8%は胃ろう・経管栄養を必要としていると考えられる。

入所者全体に対する医療処置別の処置を受けた入所者(延べ人数)の割合

N=285,265(人数)

処置		割合(%)	処置	割合(%)
喀痰吸引		3.0	点滴	3.3
			疼痛管理	2.7
胃ろう・経管栄養	胃ろう 4.0%	6.8	膀胱カテーテル	2.5
	経管栄養 2.8%		じょく瘡の処置(Ⅲ度以上)	1.0
服薬		82.7	酸素療法	0.8

※この表は入所者全体に対して実施された入所者の割合が1%以上の医療的ケアを抜粋(「その他」は除く)

資料出所)厚生労働省「平成19年介護サービス施設・事業所調査」

(参考) 介護老人保健施設の数:3,671

介護老人保健施設の入所者数:32.9万人

※ いずれも、介護給付費実態調査月報(平成22年4月審査分)より

居宅サービス（要介護高齢者等）におけるたんの吸引・経管栄養に対するニーズ

居宅サービス利用者である要介護高齢者等のうち、2.9%はたんの吸引を、3.6%は経管栄養を必要としていると考えられる。

N=12,598

(回答のあった介護支援専門員456名が担当する利用者の数)

全体に対する医療処置別の処置を受けた利用者(延べ人数)の割合

処置		割合(%)	処置	割合(%)
吸引	口腔内 *2.5%	2.9	酸素療法	2.1
	鼻 *1.3%		じょく瘡処置(I・II度)	2.0
	咽頭以降気管切開 *0.9%		インシュリン	2.0
経管栄養	胃・腸・食道ろう 3.2%	3.6	創傷処置	1.2
	経鼻 0.4%		人工肛門	1.2
膀胱留置カテーテル		2.4	点滴	1.1

※この表は入所者全体に対して実施された入所者の割合が1%以上の医療的ケアを抜粋(「その他」は除く)

※この調査では、「服薬管理」が医療処置の選択肢として提示されてはいない。

*:吸引の実施部位間での重複があり得る。

資料出所)平成20・21年度厚生労働科学研究費補助金「医療依存度の高い在宅療養者に対する医療的ケアの実態調査および安全性確保に向けた支援関係職種間の効果的な連携の推進に関する検討」(主任研究者 川村佐和子)

(参考) 居宅サービスの利用者数:216.0万人

介護予防居宅サービス:82.5万人

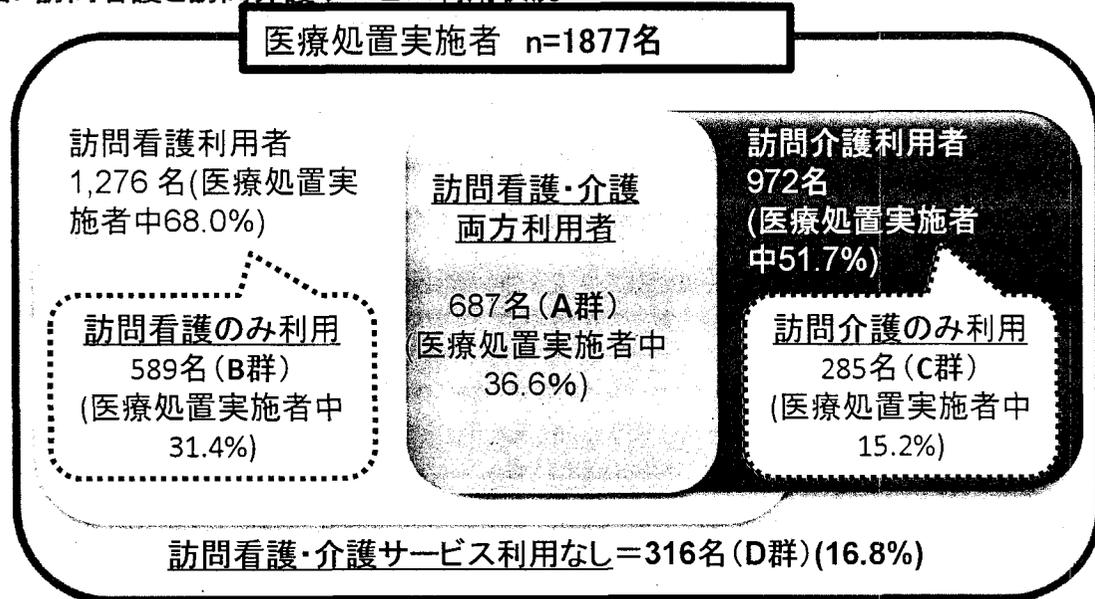
※ 介護給付費実態調査月報(平成22年4月審査分)より

在宅療養者に対する医療的ケアの実態について

①医療処置実施状況と療養環境の実態調査

(調査対象：介護支援専門員456名)

図. 訪問看護と訪問介護サービス利用状況



②関係職種との連携状況の全国実態調査

(調査対象：訪問看護師420名)

たん吸引提供における訪問看護師の関係職種との連携に関する40項目の実施状況を調査

実施率(420名中実施していると回答した者の割合)が90%以上の項目

- 「緊急時の連絡体制の確認と関係者との共有(96.4%)
- (医師への)方針の確認(96.4%)
- 医師の説明内容の確認(96.0%)」など 16項目

実施率が低い項目

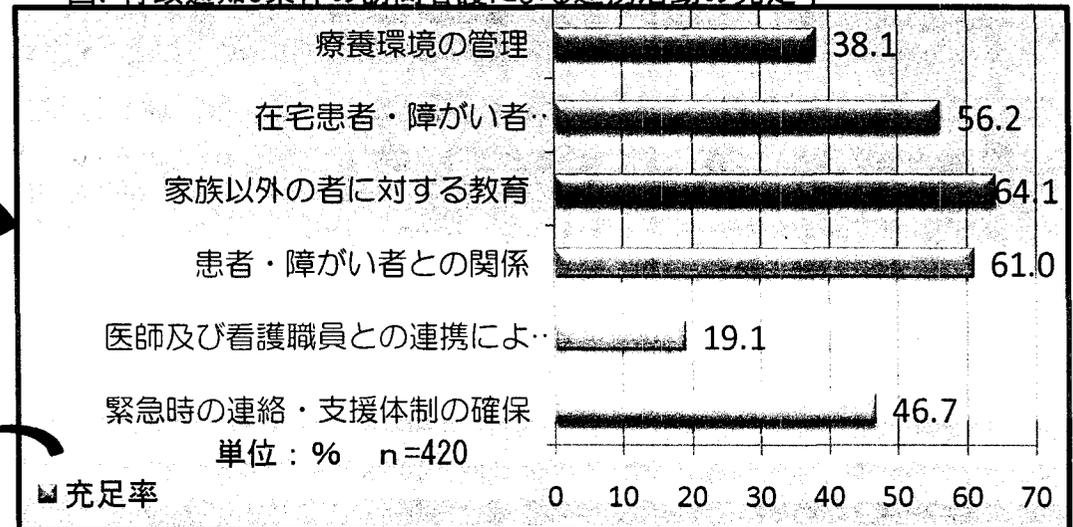
- 吸引実施体制に関するカンファレンスの実施(32.9%)
- 訪問介護職員の吸引状況の定期的な確認(40.0%)
- 訪問介護職員から訪問看護師への日常的な連絡・相談・報告の内容・方法取り決めの文書による提示(62.4%)
- 訪問介護職員の知識・技術の習得状況の評価(66.4%)

- 訪問看護利用者(A群+B群)の特徴：
 - 医療処置の重複がある(52.8%)
 - 要介護度が高い(要介護度4・5が60.6%)傾向
- 訪問看護利用：[吸引][経管栄養]の医療処置では、8.5割程度が訪問看護を利用
- 1人当たりの医療処置は平均1.84処置

訪問看護師による連携活動の全項目(40項目)全てを実施していた者は、420名中27名(6.4%)

注)充足率：本調査項目(40項目)を行政通知の6条件に再分類し、各条件の構成項目すべてを実施していた者の割合

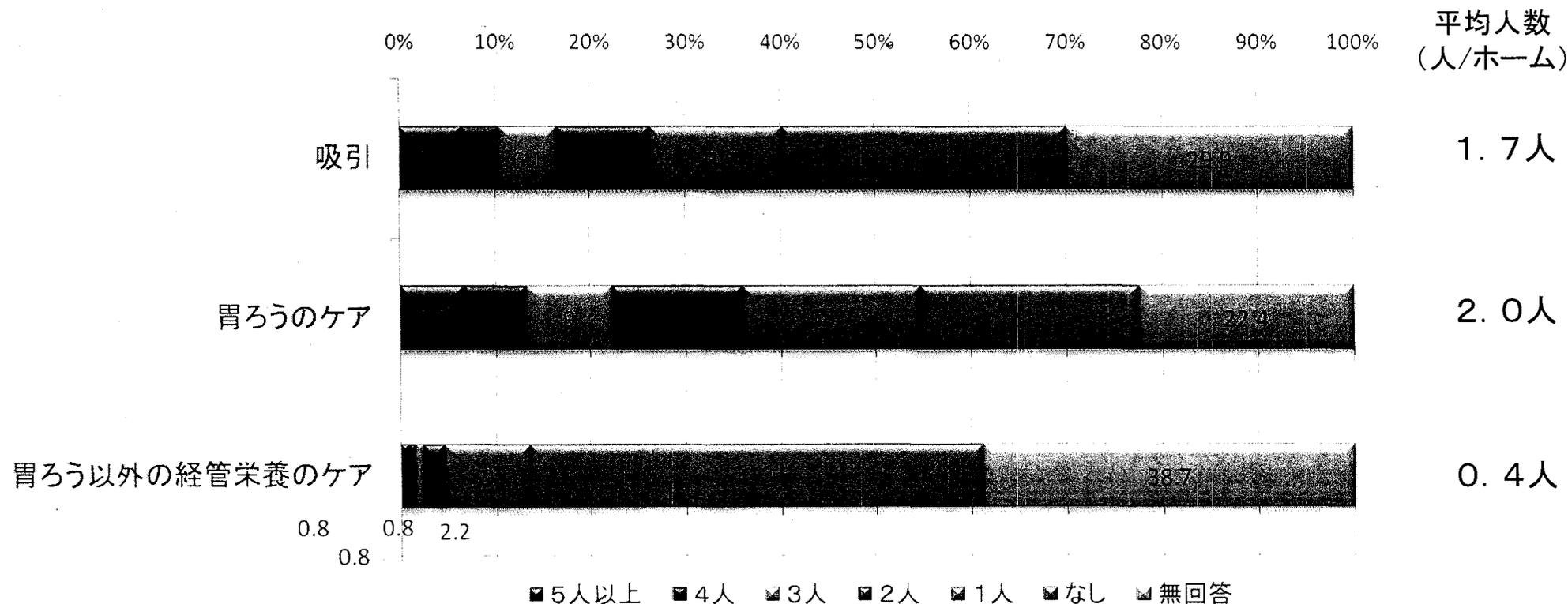
図. 行政通知6条件の訪問看護による連携活動の充足率



資料出所)平成20・21年度厚生労働科学研究費補助金「医療依存度の高い在宅療養者に対する医療的ケアの実態調査および安全性確保に向けた支援関係職種間の効果的な連携の推進に関する検討」(主任研究者 川村佐和子)

有料老人ホームにおけるたんの吸引・経管栄養に対するニーズ

- 吸引が必要な者が5人以上入居している有料老人ホームは全体の6.6%、胃ろうのケアが必要な者が5人以上入居している有料老人ホームは全体の6.8%となっている。
- 有料老人ホーム1カ所当たりの平均人数で見ると、吸引が必要な者は1.7人、胃ろうのケアが必要な者は2.0人、胃ろう以外の経管栄養のケアが必要な者は0.4人となっている。



調査期間 : 平成19年9月～10月

調査対象 : (社)全国有料老人ホーム協会または特定施設事業者連絡協議会の会員事業者997施設

回収数 : 589施設 (回収率59.1%)

(出典) 平成19年度老人保健事業推進費等補助金(老人保健健康増進等事業分)特定施設における医療サービス等の確保のあり方に関する調査研究 報告書

(参考) 有料老人ホームの施設数: 2,846施設 定員数: 155,612人 (平成19年7月1日現在・厚生労働省調べ)

認知症グループホームにおけるたんの吸引・経管栄養に対するニーズ

認知症グループホーム利用者のうち、0.5%の者はたんの吸引を必要とし、0.6%の者は胃ろう・経管栄養を必要としていると考えられる。

全体に対する医療処置別の処置を受けた利用者(延べ人数)の割合

N=7,020(人)

処置	割合(%)	処置	割合(%)
痰の吸引	0.5	じょく瘡の処置	1.5
胃ろう・経管栄養	0.6	インシュリン注射	0.9
カロリー・塩分等の制限食	4.8	尿道カテーテル	0.6

※この表は入所者全体に対して実施された入所者の割合が0.5%以上の医療的ケアを抜粋(「その他」は除く)

※この調査では、「服薬管理」が医療処置の選択肢として提示されてはいない。

資料出所)特定非営利活動法人全国認知症グループホーム協会「認知症グループホームの実態調査事業報告書(平成20年度)」

(参考) 認知症グループホーム(認知症対応型共同生活介護)の数:10,041

認知症グループホーム(認知症対応型共同生活介護)の利用者数:14.5万人

※ いずれも、介護給付費実態調査月報(平成22年4月審査分)より

障害者支援施設等入所施設におけるたんの吸引・経管栄養に対するニーズ

障害者支援施設等入所施設入所者のうち、0.6%~1.1%はたんの吸引を、2.1%は経管栄養を必要としていると考えられる。

○ 障害者支援施設等入所施設(※)の入所者全体に対する、医療的ケアの必要な入所者数(実人数)の割合(処置の種類別)

※ 内訳: 障害者支援施設(387)、身体障害者更生施設(31)、身体障害者療護施設(190)、身体障害者入所授産施設(46)、知的障害者入所更生施設(433)
知的障害者入所授産施設(69)、施設種別無回答(18) (複数種一体運営あり)

回答のあった1170施設中 N=85,028(入所者数)

処置		割合(%)	処置	割合(%)
吸引	咽頭手前までの口腔内	1.1	服薬管理(麻薬の管理を除く)	43.6
	鼻腔	0.6	浣腸	4.5
	咽頭より奥または気管切開	0.6	膀胱(留置)カテーテルの管理	2.1
胃ろう・経鼻経管栄養	胃ろうによる栄養管理 1.8%	2.1	摘便	2.0
	経鼻経管栄養 0.3%		創傷処置	1.7

※ この表は入所者全体に対して実施された入所者の割合が1%以上の医療的ケアを抜粋(たんの吸引・経管栄養を除く)

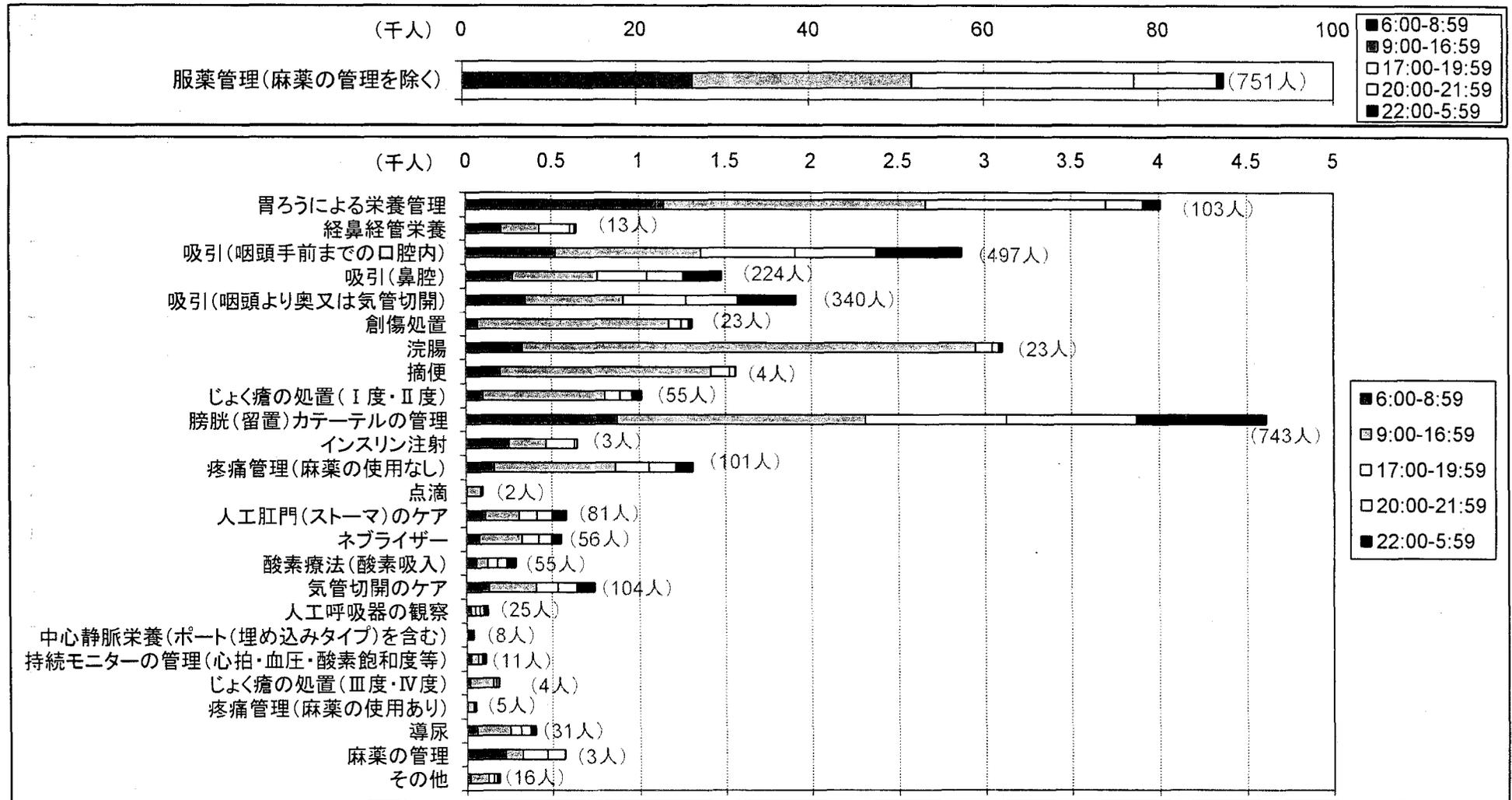
資料出所)三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「障害福祉サービスの質の向上を目指すための調査研究」

(参考) 障害者支援施設等入所施設の数: 2,492 障害者支援施設等入所施設の入所者数: 13.7万人

※ いずれも、国保連データ(平成22年2月分)より

障害者支援施設等入所施設におけるたんの吸引・経管栄養に対するニーズ（時間別）

- 胃ろうによる栄養管理、経鼻経管栄養は、夜間の時間帯(22:00～5:59)においても一定のニーズがある。
- 吸引(咽頭手前までの口腔内・鼻腔・咽頭より奥または気管切開)については、夜間の時間帯(22:00～5:59)に実施される割合が高い。



※実施人数は延べ人数 ※()内の人数については、「22:00-5:59」の間の実施人数

特別支援学校医療的ケア実施体制状況調査結果（まとめ）

（平成21年5月1日現在の状況）

(1) 対象幼児児童生徒数

区分	医療的ケアが必要な幼児児童生徒数(名)				
	幼稚部	小学部	中学部	高等部 ^{※1}	合計
通学生	45	2,551	1,223	1,142	4,961
訪問教育 (家庭)	0	587	276	217	1,080
訪問教育 (施設)	0	173	81	149	403
訪問教育 (病院)	0	258	119	160	537
合計	45	3,569	1,699	1,668	6,981
在籍者数 (名) ^{※2}	1,523	34,254	26,081	50,000	111,858
割合(%)	3.0%	10.4%	6.5%	3.3%	6.2%

※1 高等部の専攻科は除く。

※2 平成21年度学校基本調査による。

(3) 対象幼児児童生徒数・看護師数等の推移

年度	医療的ケア対象幼児児童生徒		看護師数(名)	教員数(名)
	在籍校数(校)	幼児児童生徒数(名)		
17年度	542	5,824	597	2,769
18年度	553	5,901	707	2,738
19年度	553	6,136	853	3,076
20年度	580	6,623	893	3,442
21年度	622	6,981	925	3,520

(2) 行為別対象幼児児童生徒数

医療的ケア項目		計(名)	
栄養	●経管栄養（鼻腔に留置されている管からの注入）	2,355	
	●経管栄養（胃ろう）	1,979	
	●経管栄養（腸ろう）	116	
	経管栄養（口腔ネラトン法）	99	
	I V H中心静脈栄養	58	
	●口腔・鼻腔内吸引（咽頭より手前まで）	2,872	
呼吸	口腔・鼻腔内吸引（咽頭より奥の気道）	2,011	
	経鼻咽頭エアウェイ内吸引	123	
	気管切開部（気管カニューレより）からの吸引	1,813	
	気管切開部の衛生管理	1,635	
	ネブライザー等による薬液（気管支拡張剤等）の吸入	1,577	
	経鼻咽頭エアウェイの装着	153	
	酸素療法	978	
	人工呼吸器の使用	720	
	排泄	導尿（介助）	417
	その他		723
合計(延人数)		17,629	
医療的ケアが必要な幼児児童生徒数		6,981	

※ ●は教員が行うことを許容されている医療的ケア項目である。

出典：平成21年度特別支援学校医療的ケア実施体制状況調査

介護職員数の推移①

介護保険制度の施行後、介護職員数は大幅に増加している。

介護職員の実数の推移

(単位:万人)

		平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	
合計	計	54.9	66.2	75.6	88.5	100.2	112.5	118.6	124.2 → (126.2%)	
	常勤	人数	35.7	40.9	45.0	51.7	59.3	65.7	70.0	74.1
		割合	65.1%	61.9%	59.6%	58.4%	59.1%	58.4%	59.0%	59.7%
	非常勤	人数	19.2	25.2	30.6	36.8	40.9	46.8	48.6	50.1
		割合	34.9%	38.1%	40.4%	41.6%	40.9%	41.6%	41.0%	40.3%

【参考】介護職員の常勤換算数の推移

(単位:万人)

平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年
40.6	44.8	50.0	58.0	61.9	73.9	79.0	82.8 → (103.9%)

(資料出所)厚生労働省「介護サービス施設・事業所調査」

※ 「実数・平成19年・計」及び「常勤換算数・平成19年」の()内は、平成12年からの伸び率。

※ 各年の介護サービス施設・事業所調査の数値の合計から算出しているため、年ごとに、調査対象サービスの範囲に相違があり、以下のサービスの介護職員については、含まれていない。

(訪問リハビリテーション:平成12~19年、通所リハビリテーション:平成12年、特定施設入居者生活介護:平成12~15年、地域密着型介護老人福祉施設:平成18年)

介護職員数の推移②

- 居宅サービスに従事する介護職員数の伸びが高い。
- 介護保険施設は常勤職員、居宅サービス事業所は非常勤職員の割合が比較的高い。

介護職員の実数の推移(サービス類型別)

(単位:万人)

		平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	
介護 保険 施設	計	23.6	25.4	26.6	28.1	29.8	31.2	32.2	33.0 → (56.6%)	
	常勤	人数	21.1	22.4	23.3	24.5	25.9	26.8	27.3	27.7
		割合	89.2%	88.0%	87.7%	87.1%	86.7%	85.9%	84.8%	84.0%
	非常勤	人数	2.5	3.0	3.3	3.6	4.0	4.4	4.9	5.3
		割合	10.8%	12.0%	12.3%	12.9%	13.3%	14.1%	15.2%	16.0%
	居宅 サービス 事業所	計	31.3	40.8	49.0	60.4	70.4	81.2	74.3	76.8 → (145.7%)
常勤		人数	14.7	18.6	21.7	27.2	33.4	38.8	34.2	36.4
		割合	46.9%	45.6%	44.4%	45.1%	47.5%	47.8%	46.0%	47.4%
非常勤		人数	16.7	22.2	27.3	33.2	37.0	42.2	40.1	40.4
		割合	53.1%	54.4%	55.6%	54.9%	52.5%	52.2%	54.0%	52.6%
地域密 着型 サービス		計	—	—	—	—	—	—	12.2	14.3
	常勤	人数	—	—	—	—	—	—	8.6	9.9
		割合	—	—	—	—	—	—	70.4%	69.4%
	非常勤	人数	—	—	—	—	—	—	3.6	4.4
		割合	—	—	—	—	—	—	29.6%	30.6%

(資料出所)厚生労働省「介護サービス施設・事業所調査」

- ※ 平成19年の()内は、平成12年からの伸び率。なお、「平成12年の居宅サービス」から「平成19年の居宅サービス・地域密着型サービス」の伸び率は、191.1%。
- ※ 各年の介護サービス施設・事業所調査の数値の合計から算出しているため、年ごとに、調査対象サービスの範囲に相違があり、以下のサービスの介護職員については、含まれていない。
- (訪問リハビリテーション:平成12~19年、通所リハビリテーション:平成12年、特定施設入居者生活介護:平成12~15年、地域密着型介護老人福祉施設:平成18年)